入選

— 大学・一般の部 —

「魅惑的な宇宙を知る一歩に」

髙橋みのりさん

推　し　本：『不自然な宇宙
宇宙はひとつだけなのか？』

著　　：須藤靖

推したい相手：宇宙に興味のある大人に

「魅惑的な宇宙を知る一歩に」　髙橋みのり

興味の源泉は、ひとつの文章からはじまった。私が小学生の頃、親に強請って１冊の本を買った。「うちゅうのふしぎ」というタイトルで、小さな私にも分かりやすく宇宙や科学について学べる本だった。その中でも、特に強烈に覚えている言葉がある。「ビックバンが起きる確率は、手が机からすり抜けるのと同じぐらいの確率です」という言葉だ。その隣には机から手がすり抜けてびっくりした様子の男の子の絵が書かれていた。それを見た私は、その絵の男の子ぐらいびっくりした。今自分がいる宇宙が、そんな奇跡のもとに成り立っているなんて知らなかった。その本にのめり込んでいくうちに、”自分がいるところなのに全然違うところのように思える不思議な宇宙”という空間が好きになった。そして「宇宙はとても不思議なところで面白い！」と幼な心に刻んだ。そこから何年も経って、自分でいろんなところに行けるようになると、星空観察が趣味になった。友人と様々な場所に出向いて、星を観察しながら一眼カメラで星空撮影をした。満点の星空をカメラで収めることは、まるで不思議で魅惑的な宇宙を自分のものだけにできるような気がして、胸が躍った。だからこの本を手に取ったのも、そんな宇宙に対する憧れからだった。そして改めて大人になってもっときちんと知りたいと思ったからだった。撮影した無数の星空のことを。幼い頃に衝撃を受けた摩訶不思議な宇宙のことを。「不自然な宇宙 宇宙はひとつだけなのか？」は、そんな自分にとって、「不思議で魅力的な物語的な宇宙」の側面と、「実験や観察など研究に基づいた科学的な宇宙」の側面を同時に楽しめる入門書になっている。今回、そんな本書を「推し本」として選び、私のような宇宙について興味がある大人に「推したい」理由は、大きく分けて２つある。一つ目は、前述した通り科学的な側面と物語的な側面のバランスがちょうど良い点である。本書の冒頭は、SF 作家アイザック・アシモフの短編小説「Nightfall」の話から始まる。一瞬、科学書を読んでいるのか、はたまた SF 小説を読んでいるのかわからなくなるが、興味を引くようなフィクションの話から始まることで、グッと本の中に入っていけた。文体も作者の須藤さんが語りかけてくるかのような語り

口で、講義を受けているかのような感覚になり、気楽に読める。自分自身、宇宙を語る上で必要な物理や量子力学といった知識がないまま読み始めたが、そんな私のような人でも、ビックバン・地球外生命体・シュレーディンガーの猫など、面白い話が所狭しと紹介されていくので楽しく読める。複雑な原理や理論も出てくるが、そこで理解しようとしなくても、読み進められる構成になっているため、まずは宇宙の不思議について概要を知りたい人にとって良本であるといえる。二つ目は、シンプルに「テーマが面白い」点である。この本の主題は「マルチバース」という宇宙の一つの理論だ。マルチバースとは、SF 映画などでもよく出てくる概念で、今自分たちがいる宇宙は１つだけではなく複数存在するのではないかという仮説だ。アニメや漫画で出てくるパラレルワールドのように、我々が住んでいる宇宙以外にも別の宇宙があるのではないか、そんなことを誰しも空想したことがあると思う。このような少し夢物語的なテーマで、科学的に宇宙について話していくのが本書の魅力である。マルチユニバースにはレベル１～４まで仮説が存在している。自分達が観測できる宇宙のその先に、同じように宇宙が数多存在するレベル１。宇宙だけでなく空間もコピー ＆ペーストのように複数存在し、ブラックホールがその入り口になっているかもしれないというレベル２。本書を読み進めて、この仮説を理解していくうちに、マルチバースという理論の可能性が広がっていく感覚がした。小学生の時に感じた「不思議な宇宙」のワクワク感を、科学的な根拠を持ちつつも知っていけるというのがとても面白いと感じた。以上、この本を推す大きな２つの理由だ。私自身、この本を読んでから、様々な科学視点からみた宇宙の本を読むようになった。知れば知るほど未知数で、けれど魅力的な宇宙という存在に、昔も今も惹かれている。私は何か新しいものを知る時に「最初の入り口で、ワクワクすること」が知識を深めていく時に、とても大事であると思っている。この本のタイトルや概要を知って、すこしでも「ワクワクする！」という人がいれば、是非おすすめしたい。